

4月27日 - 5月8日週のドル円レビュー

May 11, 2009

ストレステスト記事に乱高下

High : 99.80 円 Low : 95.63 円
 Close : 98.50 円

4/27 - 5/1

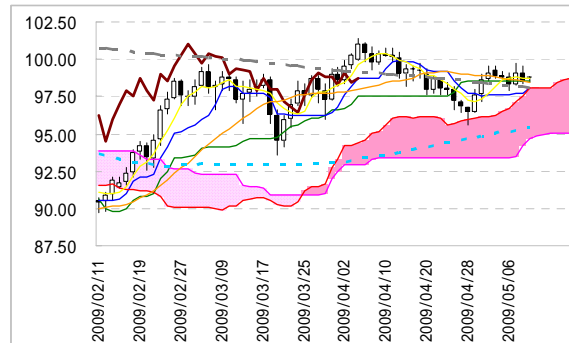
週前半は豚インフルエンザの感染拡大懸念と世界経済減速懸念に市場が反応。28日には株価が下落する中で、ドル円も一時95円台半ばへ急落した。しかし、その後は米ストレステスト結果や米自動車大手経営問題の30日期限など悪材料に対する反応も限定的に。米消費者信頼感・米GDP統計の個人消費の改善や、FOMCによる景気認識の上方修正などを受けて、欧米株価が反発すると、ドル円も一時98円ちょうど近辺まで急反発した。さらに、週末にかけてもドル円は堅調を維持。米マクロ指標が予想を上回り、株高となったため、薄商いなながらもポジション調整主導で、99.58円まで上昇した。

5/4 - 8

週半ばまで東京市場がGWのため休場で、焦点はストレステストと米雇用統計に。特にストレステスト絡みでは、米当局の意図的なリーク記事に乱高下した動きとなり、ドル円は楽観論から一時99.80円まで上昇する場面もあった。結果的にストレステストは無難に終了。日経平均が年初来高値を付けたこともあり、ドル円はやや円安傾向となった。注目の米雇用統計は失業率が予想通りの結果に。しかし、非農業部門雇用者が予想(60.0万人減)を上回ったことから、直後にドル円が99.60円まで上昇。しかし前月、前々月の下方修正を受けて相殺されたことから、最終的には98円台まで反落した。

月日	High	Low
4/27(月)	97.25 円	96.43 円
4/28(火)	96.78 円	95.63 円
4/29(水)	98.00 円	96.38 円
4/30(木)	99.00 円	97.15 円
5/1(金)	99.58 円	98.52 円
5/4(月)	99.57 円	98.73 円
5/5(火)	99.21 円	98.60 円
5/6(水)	99.08 円	97.94 円
5/7(木)	99.80 円	98.30 円
5/8(金)	99.60 円	98.32 円

ドル円の推移



テクニカル短期・中期ポイント

100.00 (心理的節目)
 = = = 先週末のNYクローズ円 98.50 円 = = =
 98.10 (日足一目均衡表・雲の上限)
 95.63 (4月28日安値)

米国の重要指標結果

4/29(水) [結果] (前回)
 1Q・GDP・速報値(前期比年率) [-6.1%] (-6.3%)
 1Q・個人消費・速報値(前期比年率) [+2.2%]
 (-4.3%)
 FOMC 結果公表 [目標レンジ 0.00-0.25%に据え置き]
 (目標レンジ 0.00-0.25%に据え置き)
 声明文では景気見通しを改善
 5/1(金) [結果] (前回)
 4月ISM製造業景況指数 [40.1] (36.3)
 5/8(金) [結果] (前回)
 4月非農業部門雇用者数 [-53.9万人] (-69.9万人)
 4月失業率 [8.9%] (8.5%)

アウトルック ダイジェスト版

レンジ : 96.50 - 100.00 円

為替市場は一連のイベントを終了。金融システムへの懸念もやや後退した形で比較的楽観ムードが漂うなか、小売売上高などが好転するかなど、米国の実体経済に注目。現在、世界の中銀の中でFRBが金融緩和を積極的に展開しており、ややドルは弱含みに推移している。この状況はFRBが短期金利を引き上げるまで継続する公算が強く、円がニュートラルである中、むしろクロス円が上昇しやすい環境となっている。ドル円に関してはレンジ内推移が当面継続しよう。